

### 第3回境港市みんなでまちづくり推進会議録

日時：平成29年10月31日(火) 18:00～20:30

場所：市役所第一会議室

#### 日程

1. 開会
2. 平成29年度境港市市民活動推進補助金の審査（一部非公開）
3. 今年度の取組テーマ「若い世代の行政参加」についての協議
4. 閉会

#### 出席者（敬称略）

（委員）

石橋文夫 植田建造 遠藤恵子 梶川恵美子 門脇紀文  
佐古 廣 徳尾 勝 松本幸永 門脇京子 佐名木歩実

（アドバイザー）

毎熊浩一

（事務局）

沼倉加奈子（地域振興課長） 木下泰恵（地域振興課長企画係長）  
渡部大樹（地域振興課企画係主事）

#### 欠席者（敬称略）

土田良和 渡部敏樹

#### <開会>

（会長）

皆さん、こんばんは。お疲れのところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

早速ではありますが、平成29年度第3回目のみんなでまちづくり推進会議を開催いたします。

本日は、ご案内させていただいたように、先に市民活動推進補助金の審査をして、その後に、毎熊アドバイザーご出席のもと、今年度の取組テーマについて協議したいと思います。

それでは、市民活動推進補助金審査について、事務局より説明をお願いします。

（事務局）

本年度、3回目の募集をしましたところ、一般事業に1団体の申請がありました。

審査員の皆様には、事前に書類審査をしていただいており、お忙しい中、ありがとうございます。

ございました。

事前審査による申請団体の評価点は、別紙のとおりとなりましたので、ご確認ください。

審査表の審査基準を基に、申請書のみでの審査をしていただきましたので、この後行われるプレゼン後に得点修正があればそこで修正していただき、審議をしていただきます。

それでは、本日の審査会の進め方について説明いたします。

ヒアリング審査員3名と地域振興課長の計4名でヒアリング審査を行います。ヒアリング審査員3名については、あらかじめ松本会長と相談して、決めさせていただきました委員の方をお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

※委員異議なし

それでは、ヒアリング審査員を松本会長、徳尾さん、佐古さんの3名をお願いしたいと思います。

続きまして、ヒアリング審査の仕方を説明いたします。

まず最初の3分間で申請団体から申請概要説明をしていただきます。その後、残りの12分間でヒアリング審査員の方に質疑をしていただきます。質疑にあたっては、ご自身で考えられた質問のみならず、お手元にあります「審査表集計結果」にあります皆さまの意見を委員の代表として述べていただくようお願いいたします。なお、質疑の間、ヒアリング審査員以外の方には、傍聴をしていただきますようお願いいたします。

プレゼン終了後に皆様で審議していただきます。そこで、事前にご記入いただいた審査表の得点とプレゼンを参考にしながら採択・不採択の決定を行っていただきます。各事業とも30点満点で、18点が合格基準点となっております。

以上で説明は終わりますが、何かご質問等ございますでしょうか。無いようでしたら、審査会を開催いたします。

※委員質問なし

<申請団体によるプレゼンテーションの開始>

◇1団体目 境港歴史研究会

- ・申請事業 「お台場ものがたり」出版事業
- ・事業内容 境公民館報「ひろば」に掲載された「お台場ものがたり」をもとに、旧鳥取藩境砲台跡（通称：境お台場）の歴史を解説した小冊子を発行し、幅広く市民に提供する。また、それに関する講演会を公民館・図書館等で実施する。

（ヒアリング審査員）

お台場の歴史を広く伝え、次世代へ継承させるという社会貢献性の高い事業であるとは理解できました。ただ一方で、限られた一部の方の活動で終わらないようにしていただき

たい。記念講演を実施するということですが、どれくらいの参加人数を想定されていますか。また、増刷ということはあるのか、する場合、どのように経費を出すのか教えていただけますか。

(境港歴史研究会)

記念講演会を公民館でやる予定ですが、全公民館でやるほどのものではありません。私の見積では、20人か30人集まれば良いかなど。出版部数については100部くらいで公民館等に配布すれば良いかと考えていましたが、一般市民の方にも周知した方が良いという会員の意見がありまして、200部という部数になりました。限られた予算の中でやっておりますので、200部としております。

(ヒアリング審査員)

公民館講座で講演をする予定はありますか。

(境港歴史研究会)

公民館のほうから要望があればやります。こちらから「講演させろ」といって押しかけるのはいかがなものかと思います。

(ヒアリング審査員)

会長の活動はよく拝見させていただいておりますが、会員で一緒になって、活動しているものはどのようなことがありますか。

(境港歴史研究会)

会員は色々な職を持っているのでなかなか活動できていないというのが実態です。この度の事業では協力して実施にあたりたいと考えています。

(ヒアリング審査員)

新聞等で広報する予定はありますか。

(境港歴史研究会)

当然、出版した際にはメディアで宣伝させていただこうと考えています。

(ヒアリング審査員)

一般市民130部に配布とありますが、これの配布方法は非常に難しいのではないのでしょうか。

(境港歴史研究会)

講演会を実施して、その際に配布しようと考えております。販売してはどうかという意見もありましたが、販売となると、販売目標数だとか金額とか書店とも話し合わなければならず、難しいです。実際、見積を頼みましたが、費用が高くなってしまいます。そして、何より売るのが目的ではなくて、市民の方に歴史を継承していきたいというのが目的ですから、配布としました。

(ヒアリング審査員)

もっともだと思います。ただ、書店で売るのではなくて、半額なり、500円なり、300円なりで売ることできると思います。

(境港歴史研究会)

販売する専門の人がいればいいんですが、自分たちで作って、自分たちで売るというのは大変です。それから、公民館で売ることになると営利目的になってしまい使わせてもらえません。税金の問題もありますし、簡単ではありません。

(ヒアリング審査員)

自己負担を上回らない300円とかで売れば営利目的ではないと思うのですが。

(境港歴史研究会)

もし有料で売るのであれば、カンパという形で「気持ち」だけいただくことはできるかと思います。

(ヒアリング審査員)

講演会について、もっと手広くやるべきではないでしょうか。せっかく作られるわけですから、最低各公民館で、もちろん会長だけでは大変ですから、他の会員と手分けしてでも、するべきではないでしょうか。

(境港歴史研究会)

昨年、お台場の史跡めぐりをしましたが、その際も20名ほどでした。要望が来ればいくらでも対応したいと思います。

(ヒアリング審査員)

公民館には配布しますね。

(境港歴史研究会)

公民館・図書館・学校には配布します。

(ヒアリング審査員)

「お台場ものがたり」は私も読んだことがあります。ぜひ、後世に残していくべきかと思えます。市の市史編纂室もありますが、関連はありますでしょうか。

(境港歴史研究会)

市史編纂室にはまったく話をしておりません。これはあくまで「根平こう」が書き記したものが中心ですので、研究的なものではありません。公的に記した文書ではないので、市史編纂室から出すのは無理があります。ただ、小さいときからあの場所で育った彼女でしか見聞きできないことを書き記していますから、これは非常に重要です。そこに私どもが歴史的なことを付け加えるということです。ですので、公的なものではないということです。

(ヒアリング審査員)

配布する部数を増やして、少しでも多くの人に読んでもらえるような機会を設けてはいかがでしょうか。

(境港歴史研究会)

冊数を増やすと、単価は下がりますが、紙代・印刷代は増えていきます。デジタルデータは残したいと思っておりますが、会員の手出しであるので、これ以上の増刷は難しいです。また、出版もこれだけでなく、毎年1回は出していきたいですし、会員で分担して取りかかろうと思っているところです。希望としては、歴史をやっている他の団体の出版と合わせてシリーズで境港の郷土史を記す企画を教育委員会とも相談して、事業としてやりたいと思っているところです。今回は、それとはまた違って公共のものではありませんが、是非多くの方に見てもらいたいと思えます。

(ヒアリング審査員)

まず初めに市民活動補助金も税金から出るものであって、公共の費用です。ご承知の上であえてこの補助金についてお話ししますと、「団体」の活動に対する補助になります。先ほど、団体としての活動は停滞しているという発言もあったかと思いますが、会長として団体の活動どのように盛り上げていけますか。また、台場の大切さを広く市民に伝えていきたいということですが、出版に至るまでに、何かほかの方法で広めていくことはできなかったのでしょうか。

(境港歴史研究会)

団体の活動としては、歴史懇話会というのを10人くらいで飲み会のような形でやっております。ただ高齢化で親の介護なんかもあって、7、8人くれば良いほうだと思っております。努力はしたいと思えます。

出版に至るまでには、お台場を中心とした史跡めぐりは過去何回かしました。それから、インターネットで境港市の文化財の紹介として、台場の紹介をしました。

<プレゼンテーション終了>

(会長)

それでは審議に入りたいと思います。みなさんプレゼンをお聞きになりまして感じたことなどがあれば発言していただけたらと思います。

<以下、非公開>

<異論なく、採決>

18:50～審査会終了

(会長)

それでは、今年度の取組テーマ「若い世代の行政参加」について話しあいたいと思います。

※毎熊アドバイザー 着席

毎熊アドバイザー、ご出席いただきありがとうございます。今年度も引き続きよろしくお願ひいたします。

では、ここからは毎熊アドバイザーに進行をお願いしたいと思います。

(毎熊アドバイザー)

よろしくお願ひします。皆さまお久しぶりです。

※スクリーンを使つての説明

さて、今年度、皆さまで話し合われた内容を事務局からいただいておまして、今日はそれを受けての私からの提案をさせていただきます。

1点目は、次第のタイトルが「若い世代の行政参加について」になっていますが、あえて「行政」という言葉を取りたいと思います。これまでの皆さまの意見が資料に入っていますが、必ずしも「行政」への参加に限っておりません。たとえば、まちづくりの一環として、町内会の活動やボランティアに参加することもあると思います。ですので、広く参加について論じてもいいかと思ひます。

2点目は、2月には境港市の市議会選挙があると聞いています。ですので、市議選に絡めて、次回の第4回の会議をできたらと考えております。皆さまの意見では私のゼミ生や、まちづくり若者委員会の委員と一緒にワールドカフェをやつてはどうかとありました。それでも良いのですが、別の形を模索しても良いのではと思ひているので、今日はその話し

合いをしてはどうかと考えております。

まずは話題提供として、広い意味での参加の状況について事務局から資料のご説明と、私のほうから政治参加について、私のゼミの活動を中心にご紹介させていただきます。そのあと、皆さまでグループワークをしていただきます。一つは、若者の参加を促進させるためにはどんなことが必要か、もう一つは、この委員会でこんなことをしたらどうかというのを考えていただきます。このような進め方でよろしいでしょうか。

※委員異議なし

(事務局)

お配りしている資料について簡単に説明させていただきます。

※資料を説明

(每熊アドバイザー)

ワークショップの中で使っていただいても良いと思います。ここまでで何か質問はありますか？ないようですので、私のほうからの説明をさせていただきます。若者の政治参加の事例として、ゼミでの取組を紹介させていただきます。

過去の推進会議での意見では、学校教育が大事だという意見がありました。特に、昨年のワールドカフェで出た意見でしたが、「小中高と決め事への参加する機会を与えてもらえていない」というのが気になりました。だから、政治やまちづくりに関心がなく、若者が「お客さん」になっているのだと。要は政治に関する授業をやっても主体性をもって何かをする内容になっていないのです。これは一つ原因だろうと思います。これを踏まえて、聞いていただけたらと思います。

と、いきなり余談になるのですが「BREXIT (ブリジット)」という言葉をご存じでしょうか。イギリスがEUを離脱することを指す言葉で、2015年にまさにイギリスがEUを離脱するときに生まれた言葉です。次に、「Google」はご存じですね。さて、イギリスで国民投票が終わって、賛成が多かったというのが分かった次の日にGoogleでイギリスの人たちが何を検索したか。1位が「BREXIT って何？」です。もう国民投票は終わっているのにです。2位が「EU って何？」です。多くのイギリスの人はEUが分からない状態で投票をして、離脱を決めてしまったということです。おそらく、日本でも同じような状況で、投票に行った人がどこまで分かって投票しているのかというと疑問があります。それを踏まえて、若者が政治に限らず、もう少し真剣に関わる機会を大人が作っていかなければいけないということです。

私のゼミで昨年度「若者マニフェスト」というプロジェクトをやりました。松江のまちづくりへの提案をゼミ生たちが作って、市長の候補者に持っていくというものです。これには高齢者福祉に関することは入っていません。若者が若者のために作ったものだからです。これをどうやって作っていったかですが、まず島大生にアンケートをとりました。どんな問題があって、どんな解決法があるか。それから、高校や高専や中学校に話を聞きに

行きました。それらの意見をゼミの中で精査して作成しました。

ゼミとは別に「ポリレンジャー」という政治サークルがあります。若者が政治への関心を高めるために、自分たちが動いて若者に刺激を与えたいという団体です。彼らがやっているのが「しょうゆ・ソース」というホームページです。「しょう」は”SHOW”、「ゆ」は”YOU”、「ソース」は”SOURCE”で、つまり、「情報源を見せる」という意味になり、政治に関する情報を集めて有権者にお見せしようというサイトです。それで、ポリレンジャーと私のゼミは直接関係ないのですが、このサイトに市長候補者に持っていった「若者マニフェスト」について、当選後、市長から意見を聞き、掲載しました。また、議員にも持って行って意見を聞いて、こちらに掲載しました。もちろん、全ての方からは返ってきませんでしたが、半分は返ってきて掲載することができました。

それから、ポリレンジャーで「ポリコン」というのも5年近くやっています。要は学生と議員のコンパです。その場で、ある市議が「若者マニフェスト」について非常に褒めてくださりました。これはやった価値があったと学生も言っていました。

そのほかにも、高校から私のゼミへ「ワールドカフェ」をやりませんかという話があったのですが、それだけじゃだめだと高校生にもマニフェストを作らせました。たまたま私立の先生方が集まる研修会があったので、そこで発表させました。もちろん、高校生だけでなく、島大生が何回も行って、アドバイスをして作りました。

また、高校へ行って「リアル模擬投票」という取組みを行っていました。模擬投票というと、りんご党とかみかん党とかっていう政党に投票するものですが、「リアル」ですので、学生が投票用紙を作って、実際の候補者と実際の政党を使って、選挙期間に実施しました。さらに、ゼミ生が高校生に対して、こんな人が出ますとか、こんなところを見ておくと、参考になるよという話をしました。

ということで、長くなりましたが、何かヒントになればと思い、お話をさせていただきました。いずれにしても、若者たちはまちづくりに関しては多少なりとも興味を持っているように思います。過疎地域に行くと、田んぼのお手伝いをするとか、おじいさん・おばあさんの話を聞くとかというのは耳にします。ただ、政治に関しては、ちょっと遠い感じがあって、本来であれば、まちづくりと政治は繋がっているのに、若者はそこに断絶があるなど。そのこの繋げ方として、いくつか方法があるとは思いますが、例えば、「若者マニフェスト」の前段で、クリスマスシーズンに小学生向けのクリスマス会をしました。要は、クリスマス会というのをエサに少し政治の話をしました。エサで釣るというのは一つの方法としてありだと思います。それから、意義で釣るというのは今まで話したとおりです。議員から「市の職員を呼んで、話をしたらどうか」という提案もいただきました。そういう手応えがあれば、若者も「やった甲斐があるな」と思うわけです。よく「1票投じたって何も変わらない」という声がありますが、アクションを起こせば何か返ってくるというのが分かると、やる意義を感じられます。また、場づくりという点では、先ほど紹介した「ポリコン」も一つですし、場を設けて、話をする機会を作ると。境港市議会でも高校生との話し合いをしていましたね。ですので、最初に言いましたが、若者を「お



客さん」にしないというのが若者の参加を考える上で、大事な要素だと思います。それを踏まえて、この会でも何かアクションができればというのが私の提案です。

<ワールドカフェ方式による討議>

(毎熊アドバイザー)

このワールドカフェで、次の第4回・第5回に向けて何をするのかという方向性が定められたらと思います。では、2つのテーマでやっていきます。一つは、「若者の参加を促進するには」というもので、模造紙に「若者が政治に参加しない原因」を書いていただきます。続けて、「こんな解決策があるのではないか」というのを書いていただきたい。もう一つは、それを受けて、「この委員会で何をしていくか」です。もしかしたら、解決策の中にこれは自分たちで出来るのではないかという意見が出てくるかもしれません。僭越ですが、この委員会自体が若者の政治参加を促す実験場にできればと考えております。

※委員・事務局が二つのテーブルに分かれ討議

○主な意見

「若者が政治に参加しない原因」	「参加を促す解決策」
政治に関心がない／分からない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校で指導する</li> <li>・ 学校で政治クラブを作る</li> <li>・ 若者が楽しみに思えるような企画を作る</li> <li>・ 行政がもっと近づく</li> <li>・ 若者に人気な芸能人による政策討論番組を放送する</li> <li>・ 学部誘致</li> <li>・ 若者限定の市長と語る会を開く</li> <li>・ 小中から継続して参加できる機会を作り、重要性を理解してもらう</li> <li>・ 立会人を広く募集する(謝礼をエサにする)</li> <li>・ 親が還暦を過ぎたら、子どもに行事ごとをさせる</li> <li>・ 不在者投票制度についての広報を充実させる</li> <li>・ 移動投票所の開設／若者の集まる場所で投票所を開設</li> <li>・ 政治家との交流の機会を設ける／飲み会を</li> </ul>
一人ではどうにもならない	
自分が関わらなくても問題がない	
面倒くさい	
大人が興味を持っていない	
家族で政治の話をしていない	
周囲のことを考える気になれない／自分のことで精いっぱい／バイトが忙しい	
テレビ・ネット等で興味のあるニュースしか見ず、政治に関するニュースを見ない	
なじみがない	
地域の行事など全て親がしてしまい、子どもの出番がない	
不在者投票制度の周知不足	
県外大学へ進学し、住所を移していない大学生は投票できない	
仕事の多様化で土日祝に休みがない	
政治家のイメージが悪い／政治不信／	

政治家に関わりたくない	開催する
-------------	------

「この委員会で何をするか」
市議と学生（中学生や高校生）の話す場を作る
選挙の仕組み・流れや、行政の仕組み・大切さ等について、子ども向けに漫画等を使って分かりやすく、テーマを絞って周知する（「子ども市報」の発刊）
SNSを使って、若者のニーズに合った広報をする
若者カフェ・若者サロンといった「場の提供」を行う

（毎熊アドバイザー）

もちろん、この中から一つ選んで、次やりましょうというのは難しいとは思いますが、これを参考にして、何をするのか、当初の予定にあった通り、学生とワールドカフェをするのか、そういったことを事務局と会長と一緒に考えていきたいと思っております。では、会長にお返しします。

（会長）

では、引き続き第4回、第5回の会議を通じて、良い形にまとめあげて報告できるよう取り組んでいきましょう。遅い時間になってしまいましたが、毎熊アドバイザー、ありがとうございました。では、事務局から何かありますでしょうか。

（事務局）

今後は、毎熊アドバイザーと会長と共に、方向性について協議していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の会議はこれで終了といたします。皆さま、本日はありがとうございました。

<閉会>